

令和4年度 学校関係者評価用紙（まとめ用）

学校番号	18	学校名	沼津東高等学校	記載者	市川 幸子
------	----	-----	---------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	育成する力	達成方法（取組手段）	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
主体的・多様性・学びに向かう力・人間力	自己肯定力		<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身にだいたい満足しており、物事を肯定的に考えることが多い生徒 50%以上◎ ・楽しく充実した学校生活を送っている生徒 90%以上◇ 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・沼東 GP 生徒自己評価結果から判断して妥当な自己評価である。しかし、成果目標の数値 50%の妥当性に疑問がある。今後は明確な評価の指標としてルーブリック評価の導入をすべきである。 ・自然体験や生活体験が豊富な青少年ほど自己肯定感が強い傾向があるとされている。本校が実施している高原教室やスタディツアーそして香陵祭は自己肯定力の醸成に大きく寄与していると思われる。 ・アンケートの回答から、自己肯定感の高い生徒が半数強もいることがわかる。沼津東高校を第1志望として受験し、入学した生徒がほとんどだと思うので、充実した学校生活を送ってもらうことでより高い数値を目指してほしい。 ・自己肯定力はある意味で人間性の基本として一番大切なものと考えます。まだまだ伸ばしていく教育環境作りを期待します。 ・自己肯定感が高いことから、意欲的な活動が推測されます。 ・比較するなら他校の数値が欲しい。日本全国の数値なら文科省が出してそう。
	利他・共生力	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育 ・ホームルーム活動 ・教科の授業 ・自治会活動 ・部活動 ・学校行事 ・交通指導 ・校外活動への参加 ・揺籃、課題研究 ・朝読書 ・進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が所属する集団や社会に貢献できるよう意識して行動している生徒 80%以上◎ ・いじめ件数・問題行動・交通事故・違反指導数の前年比減● 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Z世代の特徴として、SNSを通じて多様な人と接する機会が多いため、多様性や共感性を重視する傾向があります。沼東 GP 生徒自己評価結果から判断して、利他・共生力は高いと判断できます。 ・交通事故の減少は自転車通学が大多数を占める本校の最重要課題である。昨今自転車利用者が加害者となる事故も増加しており、さらなる安全対策指導が必要である。不登校いじめには早期の発見対応が重要と言われており、適切な対応が求められる。 クラス・部活動だけでなく自治会活動や生徒同士が分からない問題を教え合う光景なども見られ、生徒間の多様な交流を通じて利他・共生力を育成している。 いじめの発生を確認し、早期に対応されたことは評価したい。 ・（いじめに対して）アンケートによって早期対応ができ、現在は解消できた対応は、評価できる。今後も全体で共有しつつ、改善ができるようオープンな雰囲気づくりを願います。 ・社会に貢献できることは、その人の人間性に現れてきます。もう一段の伸びを期待します。 ・アンケートでいじめを見つけたことを評価したい。
	関心・知的好奇心		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業や日常生活の中で、興味・関心を抱いて情報を集めたり、これに取り組んでみたいと思ったりすることが多い生徒 60%以上◎ ・生徒の年間貸出し数 2700 冊以上● 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の年間貸出し数 2700 冊以上の成果目標の設定には疑問があります。紙の時代は終わりを告げ、すでにデジタル主流となっている昨今、本の貸出し数ではなく、デジタル媒体の利用数を成果目標とすべきだと思います。 ・リーダー養成塾への参加や対外的な研究発表への参加など校内だけでなく校外へも活動の場を広げている生徒が多く見られる。一方図書の年間貸出数の減少が見られ、様々な機会を捉え知的好奇心の喚起が求められる。 生徒が情報を入手するツールも多様化しているので、安全性も考慮しながら、対応を進めて欲しい。 ・いろいろ制約がある中で試みだして投げやりにならず、関心も極めて高い数字に生徒たちのポテンシャルを感じます。その力を今後も大切に伸ばしてください。 ・関心、知的好奇心の高さが素晴らしい。それが図書の貸し出しに繋がるよう期待します。 ・何かもっと良い指標がありそう。（ワークショップやイベントへの参加率など）時代的にも、本媒体による情報収集は減っていくのではないかと思います。
	挑戦、行動力		<ul style="list-style-type: none"> ・指示されたこと以外で、自分を高めるために、継続的に取り組んでいることがある生徒 70%以上◎ ・難関国公立大・医学科志望者数 120 人以上● ・地区大会を突破した部活動 10 以上● 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導主事の報告からすると、生徒は進路においては高い目標を設定していることが分かります。「受験」という人生の転機で挑戦する意識が高いということは、次の人生の転機の「就職」においても挑戦できる可能性が高いです。 ・高い志望目標に向かって継続的に勉強すること、部活動などで主体的に練習をすることなど挑戦する意欲が伺える。これも丁寧な進路指導を実施していることや部活動における自主性の尊重の現れと考えられる。 ・難関国公立大・医学科志望者数と合格者数は、静岡県東部の拠点校として中長期的なターゲットを設定し、より高い数字を目指すべきだろう。

					<ul style="list-style-type: none"> ・部活動は教員の負担も考慮しながら、改善を進めてほしい。 ・高い志を持ち、朋と共に切磋琢磨し、成長する姿は頼もしく嬉しく思います。今後も健闘を祈ります。 ・社会が望む人間像に合致しているように感じます。自ら進んで自らの意思でこれからも行動にうつすことを期待します。 	
	協働・巻き込む力	<ul style="list-style-type: none"> ・協働場面では、積極的に発言・活動して集団をまとめ、参加者全員を巻き込むよう工夫している生徒 (60%以上◎) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現代のリーダーシップの在り方が変わってきています。率先垂範型だけではないリーダーシップも評価をすべきだと思います。集団の特性に合わせてフォロワーになることも必要です。集団の中での自分の役割を察して行動することが真のリーダーシップだと思います。 ・スタディツアーや高原教室の集い・香陵祭など、本校においてはクラスなどの固定的な繋がりではなく共通の目的のために集団を形成し協働する機会が多い。個性あふれる仲間を巻き込み活動するには多種多様なリーダーシップが求められる。生徒の取り組みを認め伝えることにより積極性を引き出すことも求められる。 ・友人と協働して、所属する集団の目標を達成できているかとのアンケートでは、よい回答結果がでていることから、理想的な活動ができているのではないかと。自治を伝統とする校風を生かしながら、社会に出てリーダーシップをとれる生徒を育成してほしい。 ・協働・巻き込む力があると大きなプラスアルファの力が発揮されます。フォロワーシップも大切ではありますが、それはだれでもできる力ではないでしょうか。縦の繋がりには良いですね。 ・将来のリーダーとしての資質は皆、十分に持っています。あとは行動にうつすことを期待します。 ・コロナ禍で協働場面が減ったことに関連があるのではないかと。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・香陵祭、スタディツアー、高原教室の満足度 80%以上◇ ・友人と協働して目的を達成することができた生徒 80%以上◇ ・英会話、校外の学び、ボランティア活動に参加した生徒 70人以上● 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で大きな行動制限があり部活動や学校行事が実施できない中で、感染予防を徹底して学校行事に取り組んだことは評価できます。 ・2年間の試用期間として開始されたスタディツアーは、生徒教師ともに高評価であり海浜教室に換わる行事として成功していると思われる。一方、企業への関心を早期に高める事が生徒の職業や大学選択の幅を狭めてしまわないかという危惧もある。しかし本校には職業を知るセミナーや大学出張講義・大学見学などのキャリア教育も実施されている。これまでともすれば研究職専門職偏重のキャリア教育からリバランスしたとも解釈される。従前のキャリア教育と融合させ生徒の可能性・積極性を引き出していきたい。 ・新型コロナウイルス感染のリスクを考慮しながらの活動は、学校側も難しい判断を迫られたのではないかと。それぞれの活動で高い満足度を達成したという結果が出て、本当に良かった。今春以降は、より活発な活動を期待している。 ・動画がとても良い。3泊4日のスタディツアーとはいえ、事前準備や事後報告等費やす時間は相当なボリュームであり、本人の進路や人格形成に役立つのではないのでしょうか。 ・学業でないこと、義務でないことをいかに行うかが人としての知性、ポテンシャルの源であると思います。引き続き高いレベルでの行動力を期待します。 	
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の授業 ・揺籃、課題研究 ・一人一台端末活用 ・学びの基礎診断 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容が分かる生徒 80%以上 ・一人一台端末を活用している生徒 1年次生 90%以上 ・共通テスト 5教科 7科目受験率 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの体験授業を見学させていただいた際に、ICTの機材をまったく活用していない教員が見受けられました。デジタルネイティブの生徒を相手にしているのだから、教員の ICT スキルアップが必要だと思いました。スキルアップ研修の実施を検討してください。 ・本年度 1年次生から導入された情報端末は、授業において効果的に利用されている。しかし現在、従来型の授業と同時にアクティブラーニングや情報機器の利用など多くの試行が限られた時間内に詰め込まれ、生徒が戸惑いを感じていないかを注意深く見守らなければいけないと思われる。幸い授業が分かると回答している生徒が 80%以上いるということから、これまでのところ導入のメリットがより多く現れているが、成果を判断するにはもう少し時間が必要と思われる、 ・授業の理解度を高めることは重要だが、高いレベルの授業を維持し、その内容を理解できる素地を持った入学者を確保していくという視点も持つべきだろう。 ・数値目標を達成しているので問題はないのですが、100%を達成したら A かもしれません。 ・有形・無形の学校の資産が生かされていて嬉しいです。
思考力・判断	目標設定力	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の授業 ・揺籃、課題研究 ・進路指導・職業を知るセミナー 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験や部活動だけを目標設定にしている生徒が多いように思えます。大学受験で燃え尽きるのではなく、スタディツアーで企業の方々から良い刺激を受けたのだから、10年後や20年後のキャリアパスも目標設定にして欲しいと思います。 ・模試などの度に実施される面談により進路指導や拠点校とし 	

様式第5号

断力・表現力等	大学出張講義 志望校設定等 ・部活動 ・学校行事 ・校外活動への参加				<p>て、より高い目標を設定し、それを目指していく生徒を育てて欲しい。志望校決定などを通じて生徒自身の将来像を明確化させ目標設定を具体化する指導がなされている。また部活動や自治会活動・学校行事に生徒が主体的に参加しており、生徒自身が練習計画の作成や行事を成功させる体験をし、自ら目標設定力を育成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点校として、より高い目標を設定し、それを目指していく生徒を育てて欲しい。 ・実態が分かるような、目標指数を明確にし、評価しやすい方法を検討してください。 ・生徒の意識の高さを感じます。今後は目標数値 60%が妥当か検討が必要かもしれません。 ・高すぎず低すぎない目標設定は難しい。何か客観的な指標がほしい。
	課題発見・分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的に観察し、その良さと課題の両方を見いだすことができる生徒 70%以上◎ 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的に観察するには、物事を俯瞰して見る力が必要です。そのためには、学校生活で与えられたことだけをこなすのではなく、新しいことに挑戦して、自分の視野を広げることが大切です。積極的に校外に出て立場や価値観の違う人と会うことが必要です。 ・必要とされる情報が瞬時に手に入る情報化社会に育った生徒たちにとって、「正解のない問い」と向き合うことは未経験の事象であると思われる。揺籃や課題研究スタディツアーなどを活用し本校においてはその重要性を認識させ、さらに課題の発見から分析までを求めていることは高く評価できる。社会の中においてもこの能力を発揮する機会は多く、今後も本校の生徒が身につけるべき能力であると考えます。 ・探究活動の沼東ゼミでは、生徒の将来の進路選択の指針になるような活動を行い、多様化する大学入学選抜制度にも対応できるようにすべきであろう。ただし、教員の負担増にはならないような配慮が必須となる。 ・おおむね優れていると理解するが、実態の評価は難しい。アンケート等さらに充実させた結果を期待します。 ・分析し、課題解決する能力の高さは見事です。物事を理解していないと何が問題なのかわからないからです。 ・しばしば自己目標と他者評価が合わない項目だと思うので、自己評価に頼るのは危険。何らかのテストが使えるのではないかとと思われる。
	思考力	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を求められたとき、自分の意見を適切な根拠を示しながら、順序だてて説明することができる生徒 70%以上◎ 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・私立大学だけではなく国公立大学も、今後の入試で総合型選抜・学校推薦型選抜を重視するようになっていきます。一般選抜の知識量の1点を争う時代は終わりました。プレゼンテーション力を上げてください。 ・リーダー養成塾やエンパワーメントプログラムへ積極的に参加し発言する体験をし、外部の様々な考え方を受け入れながら自身の主張を展開する活動が増えている。 ・難関国公立大学の入試を突破するために必要な思考力や表現力が、日々の授業の中で育成できているのであろう。 ・様々なオリンピックや甲子園など外部のコンテストや競技に参加し優秀な成果を残してその行動に感服しました。 ・物事の深い理解力の賜物と思います。一段の飛躍を期待します。
	表現・発信力	<ul style="list-style-type: none"> ・説明するときは、聞き手を意識して話し方を工夫したり、適切な機器を用いたりして、分かりやすく説明することができる生徒 70%以上◎ 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、外資系企業ではパワーポイントを使わないところが増えています。説明をビジュアルに頼るのではなく、論理的な展開や話し方が重視されます。話すことが目的ではなく、聞いている人の心に刺さる説明がより重要になってきています。日本人が一番弱いと言われている力です。 ・揺籃や課題研究を通じ、発表発信する機会に恵まれている。さらに今年度秋季講演会において大学生大学院生の卒業制作に触れ、より具体的な表現方法を目の当たりにし大いに刺激を得たと思われる。本校では情報端末導入をいち早く採用したことにより表現力も培われ、今後さらなる成果が期待できる。 ・学校の活動の中で、生徒が自ら発表プレゼンテーションを行える場面が適切に設定できていることがうかがえる。 ・チャレンジする雰囲気が学内にみなぎっていてお互いに刺激し合っているのではないかと思います。ほめて自己肯定力を育ておくことが何より大切ではないかと思います。 ・人前で発表させる機会を意識して与えているようなので、その回数やイベントを評価目標にしてはどうか。
創造力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校生活の中で、自分の世界や発想の幅が広がっている生徒 80%以上◎ 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内だけで生活していると視野が狭くなります。越境(コンフォート・ゾーンから出る)することが必要不可欠です。スタディツアーのように、一流企業の優秀な社員と接することで、ロールモデルができ、勉強する目的が大学受験ではなく、社会貢献だと理解できるのではないのでしょうか。校外に出て優秀な人財(人材)と会うことが必要だと思います。 ・具体的に想像力の養成をどのように評価するのが難しい。尺 	

					<p>度の再検討が必要と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の世界や発想の幅が広がっていると感じる生徒の割合が非常に高く、学校の指導が適切だと判断できる。 ・のびのびと自由に制約しない自治の里を大切に、創造力を育む環境づくりを！！ ・生徒一人一人のポテンシャルは高いので、それをいかに自分の中で咀嚼し、広げていけるか、今後に期待します。 ・自己評価になじまない項目であり、親との評価の違いも顕著である。人と違うユニークさと誤解している学生がいるのではないか。どんな仕事をするにしても創造力は非常に大切なものなので、何とかして評価する方法を考えていただきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望校に合格した生徒 70%以上● ・難関国公立大・医学科合格者 50 人以上● ・探究や授業成果の校内発表会の実施、校外の発表会等への参加● ・教科、科学、図書、関係部活、探究・課題研究等の入賞● 	B	B	<p>今春の大学進学についても、高い成果が達成されることを期待したい。</p>
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・DX、外部人材活用 ・CM 	<ul style="list-style-type: none"> ・月別時間外労働時間の前年比減少 ・各種活動の検証 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの体験授業を見学させていただいた際に、先生方が独自に授業で使用するプリントを作成していることに驚きました。授業準備だけではなく、生徒指導や部活の指導を考えると、先生方には余裕がありません。限られたリソースを有効に使い成果を出すには、選択と集中が必要です。自分の授業で使用するプリントは自分がやりやすいように作成する気持ちは分かりますが、教科ごとにプリントを共有して、教科の先生方が協働してプリントの内容をブラッシュアップしていったらいいでしょうか。先生方に「利他・共生力」「協働・巻き込む力」が必要だと思います。 ・部活動指導や授業研究に多くの時間が当てられている。アクティブラーニングや情報端末の導入により新しく準備しなければならない事項も多い。さらに本校では多くの行事があり他校と比較しても忙しい学校となっている。外部人材の活用は喫緊の課題であり、今後さらなる対応が望まれる。 ・様々な制約があるなかで、学校として改善できることも限られると思うが、拠点校として率先して改善を行い、良い先例となしてほしい。 ・ワークライフバランスを取って健康第一でお願いします。学校の皆様に感謝申し上げます。 ・生徒と関わる、向き合う時間の確保を考えると、先生方のご苦労に頭が下がります。引き続き生徒のためによりしく願います。 ・先生方がお忙しいのは十分に承知しており、申し訳なく思っている。コロナのおかげでさらに大変になったことと思うが、何とか改善していただきたい。先生方が生き生きとされていることは、学生にとっても良い影響しかないと思う。